

パソコンで校正する場合の作業手順

音訳グループやまびこ

(文責：三島恵、機械操作については水野光子)

2018 年 11 月 22 日

[第 1 版]

目次

1	作業に必要な機器類	3
2	音訳者から受け取る資料	3
3	原本の下読み	3
4	初めて DAISY 図書の作成にかかわる場合	3
5	PRSP のバージョンアップ	3
6	校正	4
6.1	録音データのパソコンへの取り込み	4
6.2	データのバックアップ	5
6.3	校正	5
6.4	音訳者に渡すデータを準備する。	7
7	音訳者に渡す資料	7

1 作業に必要な機器類

1. パソコン
2. デイジー図書作成ソフトウェア（シナノケンシ株式会社製 PLEXTALK Recording Software Pro）
3. ヘッドホンまたはイヤホン
4. 校正表用紙

2 音訳者から受け取る資料

1. 原本
2. USB メモリまたは CF カード
3. DAISY 音訳表
4. 調査票
5. その他（写真説明原稿等）

3 原本の下読み

1. 調査票に目を通して、音訳者の意図や伝達事項を把握する。
2. 原本にざっと目を通して文章の流れ、内容を把握する。
3. 写真や図の位置を確認し、本文との関係を見ておく。
4. ルビの付いている単語・語句は、しっかり読みを確認しておく。

4 初めて DAISY 図書の作成にかかわる場合

1. PLEXTALK Recording Software Pro（以下、PRSP という）をインストールする。
2. DAISY TOKYO 作成の「はじめての DAISY」（以下、「はじめて D」という）に従って、作業に必要な各種設定をする。

5 PRSP のバージョンアップ

1. 使用している PRSP のバージョンの確認
PRSP を開いた状態で F1 キーを押すとバージョンを確認できる。
2. 新しいバージョンのインストール
使用中のものより新しいバージョンがあるかどうかを以下のところで確認し、新しいものがあればダウンロードし、インストールする。
[プレクストーク » ダウンロード 3. PRSPPro アップグレード専用インストーラ](#)
上のページは、以下の手順によっても開くことができるはず。

「プレクストークダウンロード」で検索 → 「プレクストーク » ダウンロード - PlexTalk.com」 → ダウンロードリストの「3. PRSPPro アップグレード専用インストーラ」を選択する。

- CD キーを訊かれたら、インストールファイルの管理者に問い合わせる。

6 校正

6.1 録音データのパソコンへの取り込み

1. USB メモリまたは CF カードの中のプロジェクトフォルダを、パソコンのハードディスク内にコピーする。コピーが完了したら、USB メモリや CF カードは安全な取り外し方で外す。
2. PRSP を起動し、コピーしたプロジェクトフォルダ内のファイル Ncc.imdn を開く（「はじめて D」 p. 54）。
3. ビルドブック（Ctrl+B キー）する（「はじめて D」 p. 66）。

USB メモリで受け取った場合は、以下の作業を飛ばして 6.2 に進む。

CF カードで受け取った場合は、以下の手順が必要。

原本のとおりにはセクションが分割されているか、また、マーク・グループ・ページが付いたフレーズが無いかどうか、確認する。

確認方法：

1. Shift キーを押しながら J キーを押すと、次のセクションの冒頭か、グループかページが付いたフレーズに飛ぶ。（Shift キーを押しながら F キーを押すと、前のセクションかグループかページに戻る。）
そのセクション分割が正しいかどうか、あるいはグループやページが付いていないかどうか、確認する。
セクションもグループもページも無い場合は「移動できません」という表示が出る。
2. Ctrl キーを押しながら右矢印キーを押すと、次のマークが付いたフレーズに飛ぶ。（Ctrl キーを押しながら左矢印キーを押すと、前のマークに戻る。）
マークが無ければ「移動できません」という表示が出る。

セクション分割が正しくなく、しかもマーク・グループ・ページのいずれも付いていない場合は、以前の編集データを無駄にする心配がないので、フレーズ区切りを自動的に整えるために、6.3 の校正作業を始める前に以下の作業をする。

1. PRSP でファイルの新規作成をする。
音声フォーマットは「PCM 22.05kHz Mono」。
プロジェクトフォルダ名を入力する際には、元のプロジェクトフォルダの中に入れ子で

フォルダを作らないように気をつける。

書誌情報の入力の後回しにしても良い。

2. 「ツール (T)」メニューの「音声インポート (A)」を実行する。

録音設定画面では、「フレーズポーズ時間：0.4 秒」「ノイズレベル：(-38dB)」となっていることを確認する。

インポートする音声ファイルは、先ほどパソコンのハードディスク内にコピーしたプロジェクトフォルダの中の、全ての音声ファイル。

3. 以降の編集作業は、この新規に作成したファイルで行う。先ほど CF カードからパソコンのハードディスク内にコピーした作業ファイルは、もう使わない。

原本のとおりにはセクションが付いている場合、または、マーク・グループ・ページ番号のいずれかが付いたフレーズがある場合は、そのまま 6.3 の校正作業に進む。

この場合、長いポーズが次のフレーズの冒頭に入っている可能性がある。そういうフレーズがあると、デジタイズで聞く人がそのフレーズに飛んだときに、長い無音で始まるので使いにくくなる。

この後の編集作業中に、長いポーズで始まるフレーズを見つけたら、フレーズの分割や結合をして、そのポーズが前のフレーズの末尾に付くように整える（「4.3. フレーズ編集」を参照）。

6.2 データのバックアップ

以下の作業内容はすべて、PRSP が勝手に上書き保存している。また、PRSP には「名前を付けて保存」という機能がない。一旦 PRSP を閉じてしまうと、昔の作業状態に戻すことができない。（PRSP を閉じない限り、Ctrl+Z キーで以前の状態に戻すことができる。）

途中経過の作業内容を残しておきたい場合は、Windows に付属の「エクスプローラー」でコピー・貼り付けするなどの方法で、プロジェクトフォルダを別の名前で保存しておく。その際、プロジェクトフォルダが入れ子状態にならないように、保存場所に気をつける。

但し、プロジェクトフォルダのコピーの数が増えれば、ハードディスクの空き容量が減るので、必要に応じて古すぎるコピーを削除する。

6.3 校正

1. PRSP を起動し、6. で用意したハードディスク内のデータを開く。
2. 不要な音が入っていないか注意する。
3. 急に声が大きくなったり小さくなったりしていないか注意する。
音量は -12dB（小）から -6dB（大）の間に保つ。
（図 1：画面右端、縦バーに音量メモリがある。下が小、上が大。）

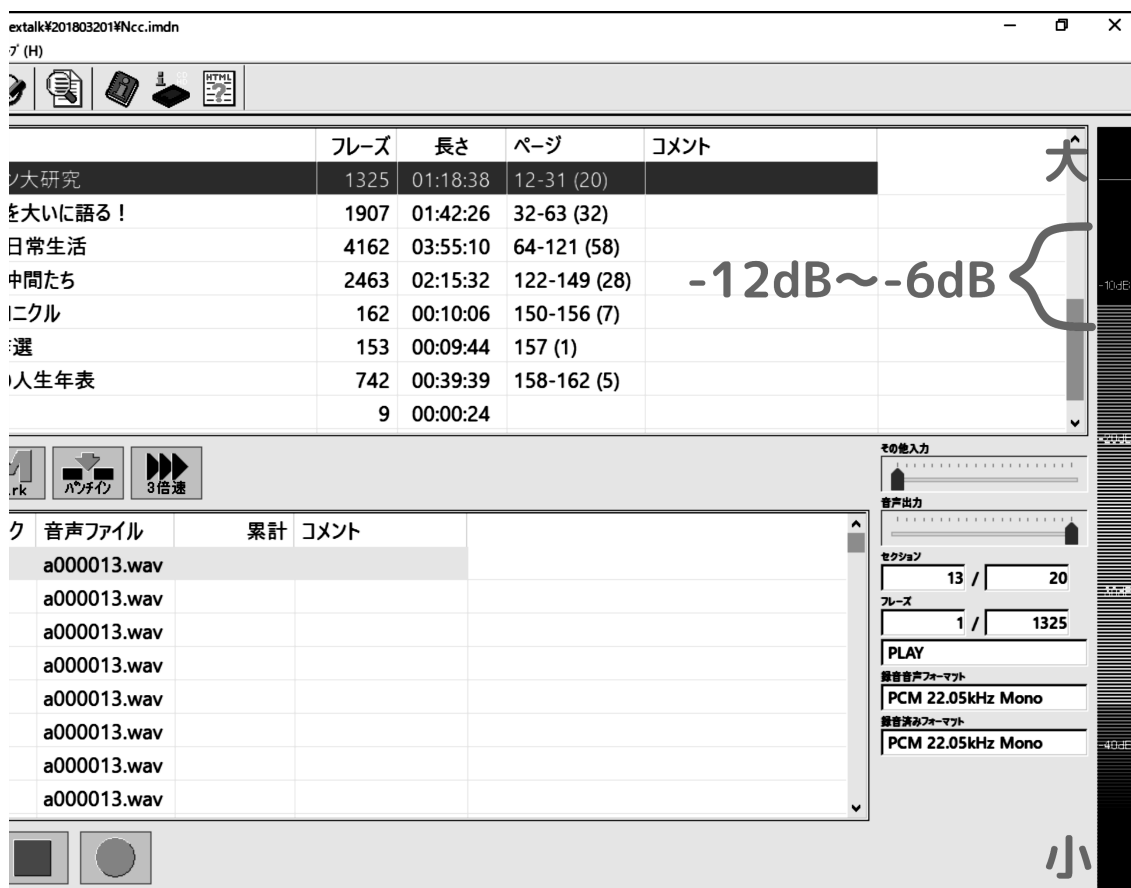


図 1 : PRSP の画面

4. マークを付ける。
読み直しが必要な個所や雑音が入っているような場合に、該当するフレーズにマークを付け、校正表に必要事項を記入する。
 - ・ 付ける — 該当するフレーズを選択した状態で **M** キーを押す。
 - ・ 消す — マークの付いたフレーズを選択した状態で **M** キーを押す。
 - ・ マークを付けたフレーズにコメントを付けても良い。そのコメントは、編集者や、パソコン録音の場合の音訳者が読むことができる。
フレーズにコメントを付けるには、そのフレーズを選択した状態で **Enter** キーを押し、画面に現れる「フレーズのプロパティ」ウィンドウの「コメント :」欄に記入する。
5. DAISY 図書として必要な項目が録音されているか確認する。
 - ・ タイトルコール（題名と著者名のみ。著者多数の場合は ○○ 他 □ 名でもよい。）
 - ・ 録音時間「録音時間約 □ 時間 □□ 分」
 - ・ 著作権ガイド
例：図書館依頼の本（雑誌）の場合
「この図書（雑誌）は著作権法に基づき、障害や高齢等の理由で通常の活字による読書が困難な人のために、東京都北区立中央図書館が製作したものです。」
6. 録音図書凡例、表紙、表紙折り返し部分等に読み落としはないか、それぞれに「○○ 終わ

り」が入っているか確認する（表紙カバーを表紙として読む）。

裏表紙に記載された定価はここでは読まず、「奥付終わり」の直前に入る。

7. 原本凡例がある場合は「原本凡例終わり」が、目次の後には「目次終わり」が入る。

8. 原本は文字を一字一字目で追い、耳から入ってくる読みと不一致がないか確認していく。

- 一字一字を目で追っていると文章としてはわかりにくくなるので、最初の下読みがきてくる。
- 写真等の説明原稿は音訳者の原稿なので、説明の内容に誤りがない限り、録音と原稿が多少違っていても許容範囲。

9. 括弧始めの記号（「〔…を読んであるときは、対になる括弧終わりの記号〕」…も読んでいるか確認する。

例：旧岩淵水門（赤水門）を眺め

→ 旧岩淵水門 **かっこ** 赤水門 **かっこ** ことじを眺め

10. 著者紹介、奥付…の後に「○○ 終わり」が入っているか確認する。

裏表紙に定価が記載されている場合は、奥付終わりの前に定価が読まれているか確認する。

11. 終わりのアナウンスが入っているか確認する。

「以上で（書名）を終わります」

「制作完了（西暦）年月」

「制作は東京都北区立中央図書館でした」＋「無音 3 秒」または

「制作は音訳グループやまびこでした」＋「無音 3 秒」

6.4 音訳者に渡すデータを準備する。

1. 校正作業の完成したデータを、空の USB メモリにコピーする。
2. 音訳者が DR-1 を使用する場合は、カードリーダーを使用して録音データを空の CF カードにコピーする。CF カードにデータが残っている状態でコピーすると DR-1 でデータを読み取れなくなるので注意する。

7 音訳者に渡す資料

1. 音訳者から預かったもの
2. 校正作業の完成したデータのみを入れた USB メモリまたは CF カード
3. 校正表